

議案第90号

iU 情報経営イノベーション専門職大学と京丹後市との連携・協力に関する地方創生協定の締結について

iU 情報経営イノベーション専門職大学と京丹後市との連携・協力に関する地方創生協定を、別記のとおり締結することについて、京丹後市議会基本条例（平成19年京丹後市条例第55号）第10条第1項第3号の規定により、議会の議決を求める。

令和2年6月12日提出

京丹後市長 中山 泰

提案理由

iU 情報経営イノベーション専門職大学と京丹後市が包括的な連携協力のもと、多様な分野において ICT を活用した人的、物的、知的資源の交流・活用を図り、地方創生及び人材育成に寄与することを目的として協定を締結するものである。

(別記)

iU 情報経営イノベーション専門職大学と京丹後市との
連携・協力に関する地方創生協定書

iU 情報経営イノベーション専門職大学（以下「甲」という。）と京丹後市（以下「乙」という。）は、次のとおり地方創生協定を締結する。

(目的)

第1条 この地方創生協定は、甲と乙が包括的な連携のもと、教育・文化、産業、健康・福祉、まちづくり等の様々な分野において人的、物的、知的資源の交流・活用を図り、幅広い分野でA Iを含むI C Tを活用した連携・協力を進めることを通じて、地方創生及び人材育成に寄与することを目的とする。

(連携事業)

第2条 甲と乙は、次に掲げる事項について、A Iを含むI C Tの活用により連携・協力してその取り組みを行うものとする。

- (1) 教育・文化、スポーツの振興・発展に関すること
- (2) 産業振興に関すること
- (3) 健康・福祉に関すること
- (4) 環境保全・生活環境の向上に関すること
- (5) 人材育成に関すること
- (6) まちづくり・市政運営に関すること
- (7) その他前条の目的を達成するために甲乙が必要と認めること

(期間)

第3条 本協定の有効期間は、令和3年3月31日までとする。ただし、この協定の有効期間満了の日の1か月前までに、甲乙双方のいずれからも通知がない限り、満了の翌日から1年間毎に自動的に更新するものとする。

(経費)

第4条 本協定に基づく連携事業の実施に要する経費については、甲乙協議してその都度これを定めるものとする。

(その他)

第5条 本協定に定めるもののほか、連携・協力の具体的事項及びその他必要な事項については、甲乙協議してこれを定めるものとする。

本協定を証するため、本協定書2通を作成し、甲乙署名押印の上、各自その1通を保管するものとする。

令和 年 月 日

甲 iU 情報経営イノベーション専門職大学
学長

乙 京丹後市
市長

iU 情報経営イノベーション専門職大学 概要資料

【大 学 名】 iU 情報経営イノベーション専門職大学

【開 学】 令和2年4月

【運 営】 学校法人電子学園（併設校：日本電子専門学校）

【学 長】 中村 伊知哉

（略歴）

京都大学経済学部卒業

慶応義塾大学で博士号取得（政策・メディア）

1984年 ロックバンド少年ナイフのディレクターを経て旧郵政省入省

1998年 MIT メディアラボ客員教授

2002年 スタンフォード日本センター研究所長

2006年から慶應義塾大学大学院教授

2020年4月 iU 情報経営イノベーション専門職大学学長に就任

【学 部】 情報経営イノベーション学部 情報経営イノベーション学科

【キャンパス】 本校舎 墨田キャンパス（東京都墨田区）、竹芝サテライトオフィス（東京都港区）

【学 生 数】 200名（定員）

【教 員 数】 専任教員：28名、客員教員：230名

【教育理念】「変化を楽しみ、自ら学び、革新を創造する。」

【大学の目的】

- 時代の変化をいち早く予見し、変化を恐れず、挑戦していく。
- そしてグローバル社会でビジネスにイノベーションを起こす。
- そのために、「ICT」「ビジネス」「グローバルコミュニケーション」を3本柱として学び、これらを手段とし、インターンシップやイノベーションプロジェクトを通じて、革新を創造する実践力を身につけていく。

【学部の特徴】

① 情報技術の可能性を知る「ICT力」

- プログラミングやシステム開発など、ICTの基本的な知識やスキルから、セキュリティでIoT、AIなどICT分野のトレンドまでを網羅的に学習
- 急速に変化する世界で、新たなサービスを開発できるテクノロジーを身につける。

② 論理的思考で世の中に変革を起こす「ビジネス力」

- 連携企業で実務に携わっている方、起業経験者など、実務経験豊富な教員から、社会人としての基礎的・汎用的な知識、ビジネススキル、ビジネスプランの設計などを学ぶ。
- そこから起業や新規事業の開発などを実現できる力を養う。

③ 国境を越えて世界中の人と協働する「グローバルコミュニケーション力」

- 世界でビジネスを展開していく上で必須のコミュニケーションツールである英語を基礎から鍛え、国際舞台で仕事をするためのコミュニケーションスキルを磨く。

【特徴的なカリキュラム】

① 新たな商品やサービスの開発、起業を目指す4年継続科目「イノベーションプロジェクト」

ビジネスに必要な仮説・企画立案、投資家などに対して自らが考えたサービスやプロダクトを紹介するピッチなどを通し、論理的思考やデータ分析力、事業計画策定力などを高めていく。カリキュラムからの発展として学生の起業に向けたチャレンジの後押しも行っている。

② 640時間（約5ヵ月間）の企業インターンシップ

連携企業・団体をはじめ、ビジネスの最前線に置くことで、必要なスキルを自分のものにしていく。

【産官学連携】

- 民間企業・団体等180以上と連携し、多様な分野の企業プロジェクトに参加
- キャンパスが所在する墨田区内の中小企業のICTに関する知識・技術の向上や、区内産業の活性化、教育・学習面での貢献などが期待されることから、平成29年12月4日に、包括的連携協定を締結
- 行政や地元企業、金融機関で新たなサービスや商品開発も実施
- 地域や企業が抱える課題に対して、学生がICTを手段として解決していくケーススタディやフィールドワークを展開
- 区内の商店街の活性化なども行い、墨田区のより良い街づくりにも貢献していく。